

西川町政5期目のまちづくり

昨年7月の町長選挙により5期目をスタートした西川町政。
今月号は新しい年を迎えるにあたり、西川町長の町づくりに対する思いをお聞きしました。

―平成5年の就任以来、野外彫刻や美術館に代表される「緑と彫刻のあるまちづくり」の推進をはじめとして、最近では役場裏のさくら団地の分譲や雇用促進住宅の購入など人口減少に対応する施策にも取り組まれています。ずばり西川町政の5期目において目指すものをお聞かせください。

広域連携による雇用の場の確保を

まずは雇用の場の確保が大きな課題でしょうね。ただ、企業誘致などについては津奈木町単独でどうにかできるものではありませんので、通勤圏として考えられる出水から八代までのある程度広域的な取り組みが必要だと思います。それと必要なのは地場産業の活性化。企業誘致に頼るよりは地元企業の元気づくりをしていくことが現実的かもしれません。

高速交通網の整備に対応した住みやすい町づくり

次にあげられるのが、住みやすいまちづくりを進めることです



↑インタビューに答える西川裕町長。その発言には、町の将来を見据えた堅実さと物事を柔軟にとらえるしなやかさが感じ取れました。

ね。現在、西回り自動車道や九州新幹線などの整備が着実に進んでいます。新政権になり整備の進捗が遅れが出るかも知れませんが、それら高速交通網の整備に対応したまちづくりが必要になってくると思います。まずは交流人口の拡大。もはや観光は複合産業であるため、様々な取り組みを一体的に進めなければならぬと思います。もちろん四季彩や重盤岩・舞鶴城公園、グリーンゲイト、美術館をはじめ、海岸線などの美しい

自然環境を生かした取り組みをこれまで以上に確実に進めることもありますが、ほかにもおいしくて特徴的な食べ物の提供やお土産品の開発、そして町全体でおもてなしの心を向上させていくような取り組みも必要だと思います。あとは町としての佇まいですね。ヨーロッパの街並みがそうであるように来る人が落ち着けるような環境整備が必要だと思います。たとえば本町には石橋などの古いものがある

りますが、生活の中でそのような伝統あるものを保存再生していくということがとても大切なことだと思います。

定住人口の拡大を

高速交通網が整備されるということは、通勤・通学圏が拡大するということです。このことに伴い、田舎に住んで都会に通うという生活スタイルの選択も出てくる。このときに居住地として選んでもらえるかどうか。それを考えたときには住みやすいまちづくりをいかに進めるかが大切だと思います。これは

トータルで考えなければなりません。高齢化に対応するための医療の確保や若者世代にとっては子育て支援の充実などがあげられます。そして忘れてはいけないのが地域住民のつながりですね。田舎にはお互いに助け合い協力し合うというつながりがあります。そういったものが大切にしていくことで安全安心な町づくりにつながっていくのではないのでしょうか。そしてやはり長い目で見ると教育なのではないかなと考えます。

それから宣伝をさせていただく、あけぼの団地（旧サンコーポラスつなぎ）の入居者の募集が昨年12月に始まりまして、1階から3階までは家賃が

2万5千円、4階と5階は2万円です。今後の定住人口の増加に期待しています。

―5期目の就任の際に、当面の課題として「教育問題」、「雇用対策」、「水俣病問題」の3つを挙げられていましたが、具体的にどのような対策をお考えでしょうか。

時代に対応した雇用対策を

雇用対策については、概略は冒頭申し上げたとおりです。現在の深刻な不況等を考えても厳しい状況が続くかと思いますが、今後も継続した取り組みが必要だと思います。また、時代に対応した取り組みも必要だと思います。まずは福祉など新しい分野における雇用創出についても検討が必要かと思いますが、この問題は住民負担の増加にもつながることですので、既存の計画に沿った取り組みが必要だと思います。新たな取り組みとしては、現在、バイオマスタウン構想策定に取り組んでいます。これは、再生可能な有機性資源を循環させるシステムの構築を目指したものです。この指定を受けることで関連企業の誘致に有利となりますので今後に期待したいと思っています。